

解 答 速 報

福岡大学 医学部 英語

2026年 2月2日実施

〔I〕

(解答例)

私たちの思考や判断の質ということになると、通信メディアが提供する情報の量というのは、そのようなメディアが情報を提示する方法や私たちの頭がそれを取り入れる方法ほど重要ではない。

(別解)

私たちがどの程度うまく考え正しく判断するかということに関しては、通信メディアが提供する情報の量というのは、そうしたメディアがその情報をどのように提示し、私たちの頭脳がそれをどう取り入れるかということほど重要ではないのである。

〔II〕

1	2	1	4	1	7	2	0
---	---	---	---	---	---	---	---

〔III〕

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
1	3	2	4	4	1	2	3

〔IV〕

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)
5	4	3	1	2	5

〔V〕

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)
A	5	4	6	7	3	2
B	4	6	1	7	5	3
C	4	2	5	7	1	3
D	4	1	5	6	7	3

[I]

【全訳】

約 400 人の重要な思想家を対象にした調査で、80%以上が次の意見に同意していた。「人々がインターネットを利用することにより、2020 年までに人間の知能は向上しているだろう。かつてないほど多くの情報にアクセスできるようになるにつれて、人々はより賢くなり、より良い選択をするようになる」その 2020 年が到来した。しかし、私たちはより賢くはなっていない。より良い選択をするようになってもない。私たちの思考や判断の質ということになると、通信メディアが提供する情報の量というのは、そのようなメディアが情報を提示する方法や私たちの頭がそれを取り入れる方法ほど重要ではない。脳の内容には限界がある。知覚から理解に至るまでの道は狭いのである。

「インターネットによって人は賢くなったか」に関する英文。テクノロジーや文化に関する書籍の執筆者であるアメリカの著述家 Nicholas Carr による文章の抜粋で比較的理解しやすい内容である。下線部には“when it comes to”や比較表現、関係詞の省略が用いられているが、難解な語句や文法事項は含まれないため、和訳しやすい。

下線部和訳問題では、前後の文脈をつかむことも重要である。下線部の前に、思想家たちも同意した「インターネットにより人々が 2020 年までに賢くなっているだろう」という意見と、その意見に反して賢くなっていない現在の状況との対比が述べられており、続く下線部ではその現状の根拠や説明の提示が行われている。

下線部の表現を見てみよう。“when it comes to~”「～のことになると」は話題を提示する表現である。これに続く thoughts と judgements は、下線部前の文にある “We’re not becoming smarter.” と “We’re not making better choices.” の内容をそれぞれ受けていることを押さえておきたい。複数形になっているのは、人間の具体的な思考や判断を指しているためと考えられる。ここでは、「私たちの思考や判断」と訳した。

「通信メディアが提供する情報の量」はインターネットで格段に増えたにも関わらずそれが人間の賢さにつながっていないのは、もっと重要なものがあるからであると下線部では述べられている。“less~than...”は「…ほど～でない」という表現である。比較対象として2つの“the way SV”があるが、2つ目の way に続く節にある“our minds”は、後述の文で“the brain”と言い換えられていることから、和訳では「頭」（または脳、頭脳）とするのが望ましい。

[II]

【選択肢の訳】

11. 「筆者がスペイン語を話す能力は、20年間ずっと同じレベルのままである」
12. 「筆者は自分の手書きの文字が判読困難になっていることに気づいて衝撃を受けたのだが、それはキーボードを打ったりテキストメッセージを送ったりする習慣が原因であると彼女は思っている」
13. 「薬剤師の下手な手書きの文字が原因で、アメリカ人の患者が1人亡くなった」
14. 「手書きで書く方が、キーボードを打つよりも、学習や記憶が容易になる」
15. 「イギリスでは、小学生の手書きの能力が徐々に向上してきている」
16. 「オードリー・ファン・デル・メールは、脳の機能にとって手書きが重要であると理解しているので、日常生活でキーボードを打つことは避けている」
17. 「今日多く人は手書きで署名をすることがなく、そのため、法律文書が本物であると証明することが難しい」
18. 「イングランドとウェールズでは、警察で働く法科学文書鑑定人の数が、1980年代以来25パーセント減っている」
19. 「筆跡心理学はまだ、将来性のある職業にはなっていない」
20. 「筆者の“T”の文字の書き方から判断して、彼女は自信を持っていることに関しては何の問題もないように思える」

11. 第1段落第1～3文の内容と合致しない。筆者は20年以上幾度かスペインを訪問しているにもかかわらず、現地の友人にスペイン語が下手であることを指摘された。それに続く部分で、“after decades of studies, there had in fact been times when I could speak as well as any local four-year-old. This was not one of those times, unfortunately.”とあり、筆者としては、4歳の子ども程度には喋れるようになってはいるが、残念ながらその時はうまくいかなかった、という認識であることがわかる。「20年間ずっと同じレベル」であったわけではない。
12. 第1段落第4文～最終文の内容と合致する。第4文で、スペイン語がうまく喋れなかったこと以上に悪い事を発見した、とあり、第5文以降から、それが自分の手書き文字が判読できなかったことだとわかる。最終文の意味は「長年キーボードを打ちテキストメッセージを送ったことで、わたしはかなりの犠牲をこうむった」である。
13. 第2段落最終文の内容と合致しない。42歳のアメリカ人患者が亡くなったのは、薬剤師ではなく医師の手書きの文字が下手だったため、間違った薬を与えることになったからである。
14. 第3段落第2文の内容と合致する。「いくつかの研究によると、子どもも大人も手書きで書いた場合の方がより多く学習し、記憶できる」とある。
15. 第3段落最終文の内容と合致しない。期待された筆記能力の基準に達しているイギリスの小学生の割合が、2019年の70%から2022年の59%に減少した、ということが書かれている。
16. 第4段落第1文の内容と合致しない。“Van der Meer admits she hardly writes by hand any more”とあるように、ファン・デル・メールは手書きの重要性を認識しつつも、手で文字を書くことをほとんどしていないことがわかる。
17. 第5段落第3～5文の内容と合致する。遺言の署名を確認するのに、それを書いた人の実物の署名を数多く見つけなければならないが、人々がもはや署名をしなくなって十分な参考資料が得られず、それが難しくなっている状況が述べられている。
18. 第6段落第2文の内容と合致しない。法科学文書鑑定人の数は、1980代の少なくとも25人から現在は5・6人に減少しているのもあって、25%の減少ではない。
19. 最終段落第4・5文の内容と合致しない。トラッセルが様々な企業から仕事の依頼を受けており、過去も現在も忙しいと述べている。
20. 最終段落最終文の内容と合致する。“I”の文字を鑑定してもらったところ、筆者が自尊心を持つことは健全であると述べられている。

[III]

(a) 1. became

従属節の動詞が *ages* (現在形) になっているので、主節の動詞を1. のように *became* (過去形) にすることはできない。2. のように “has become” (現在完了形) であれば現在もそうであることが含意されるので適した表現である。

As the global population ages, understanding the factors linked to mental decline () increasingly important.

「世界の人々が高齢化するにつれて、認知機能の低下につながる要因を理解することはますます重要に_____」

2. なっている
3. なるだろう
4. なりつつある

(b) 3. hasn't had

<There be~> 「～がある」という表現が基本になっていて、この *be* 動詞が欠けている3. の *hasn't had* が不適切である。1. の “couldn't have been” は仮定法過去完了の帰結節、2. の “couldn't be” は仮定法過去の帰結節に用いられ、起こりえないことを言外に仮定する場合の表現になっており、1. であれば、「チームにとってこれ以上良い結果はありえなかっただろう」つまり「チームにとって最高の結果だった」という意味になり、同様に2. であれば、「チームにとってこれ以上良い結果はありえないだろう」つまり「チームにとって最高の結果である」という意味になる。

There () a better result for the team, as they finally won the championship.

「そのチームにとってさらに良い結果は_____。というのも彼らはついに優勝したからである」

1. ありえなかつたろう
2. ありえないだろう
4. これまでなかつた

(c) 2. was recognized

2.の“was recognized”は受動態になっているので、その後に行為者を言う場合は「～によって」を表す by が必要である。他の表現はすべて“some of ~ friends”という名詞句が recognize という他動詞の目的語になっているので適切である。

He () some of his old high school friends at the party for former students.

「彼は同窓会で昔の高校の友達の一部_____」

1. が誰か認識するのに苦労した
3. が誰かすぐに分かつた
4. が誰か分からなかつた

(d) 4. is appeal to

“The new movie”のことを説明する文で、be 動詞の直後に動詞の原形や抽象名詞を置くことは原則としてできないので、4. の appeal to が不適切である。3. の appealing は「人を魅了するような」という意味の形容詞として be 動詞の後に続けることができる。

The new movie () a younger generation of animation fans.

「その新しい映画は若い世代のアニメファン_____」

1. には魅力的なものである
2. には魅力的なものである
3. には魅力的なものである

(e) 4. won

What で始まる感嘆文の主文がいったん“she had”で完結しており、その後には話し手がそう感じた理由を <by doing>, <to do>, <doing>, (この doing は分詞構文を作る現在分詞) で示した表現が適している。4. は luck に続く部分が she を主語とする従属節だと考えても、動詞部分が <had done> の形になり、過去の基準となる部分が文中にないのに過去完了形を用いているので不適切である。

What an amazing stroke of luck she had () a holiday to Hawaii!

「ハワイ旅行_____彼女はなんと驚くほど幸運だったのだろう」

1. を引き当てるとは
2. を引き当てるとは
3. を引き当てるとは

(f) 1. had displayed

後半の「新しい電気自動車」を主語とする節の動詞部分に「展示される」という受動態を用いることが求められるが、1. の“had displayed”には be 動詞が欠如しているので不適切である。

It was the first time that the new electric vehicle () at the media event.

「そのメディアイベントで新しい電気自動車が_____のは初めてだった」

2. 展示された
3. 展示された
4. 展示された

(g) 2. it can result

result を「～(という結果)につながる」という意味で用いる場合は、<result in ~> という形になるので、この in が欠けている 2. の it can result が不適切である。

If maintenance staff do not follow proper procedures, () a lack of safety.

「整備員たちが適切な手順を踏まなかったら、安全性が欠如すること_____」

1. になるかもしれない
3. から問題が生じる
4. になる

(h) 3. located at

<such 形容詞 名詞 as ~> という表現では as の後に名詞が続く必要があるため不適切である。また, as を関係代名詞と考えたとしても, as の後に必要な are が欠けているためやはり不適切である。なお, <be located> の主語となりうるのは具体的な建物や場所であり, 仮に are があつたとしても先行詞が views (景色) であるのは不自然である。

It is hard to find such wonderful views as () Mount Fuji.

「富士山_____ほど素晴らしい景色を見つけることは難しい」

1. からの景色
2. の景色
4. における景色

[IV]

(a) perform [pə'fɔ:m] と同じものは 5. mortgage [mɔ:ɡɪdʒ]

1. target [tɑ:ɡɪt]
2. emotion [ɪməʊʃən]
3. computer [kəm'pjútə]
4. purchase [pɜ:tʃəs]

(b) stadium [stéidiəm] と同じものは 4. framework [fréimwɜ:k]

1. original [ə'ri:dʒənəl]
2. backwards [bækwɜ:dz]
3. senate [sénət]
5. economics [ekənómiks]

(c) dollar [dɔ:lə] と同じものは 3. cottage [kɔ:tɪdʒ]

1. timber [tɪmbə]
2. campus [kæmpəs]
4. production [prədʌkʃən]
5. motive [móutrv]

(d) notebook [nóutbuk] と同じものは 1. robot [róubət]

2. proposition [prəpəzɪʃən]
3. football [fútbɔ:l]
4. mosquito [məskítou]
5. forwards [fɔ:wɜ:dz]

(e) calendar [kæləndə] と同じものは 2. standard [stændəd]

1. painful [péɪnfl]
3. rainbow [réɪnbəʊ]
4. mineral [mínərəl]
5. expect [ɪkspekt]

- (f) precisely [prisá:slɪ] と同じものは 5. politely [pəˈlaɪtli]
1. extremely [ɪkstri:mli]
 2. explanation [ekspləˈneɪʃən]
 3. ribbon [ˈrɪbən]
 4. independence [ɪndɪˈpendəns]

[V]

A. 5 4 6 7 3 2

Should you have any other questions about the contract, please **do not hesitate** to contact us by e-mail or phone.

前半は、仮定法の副詞節であることが推測できるが、if がないので should を文頭に置いた倒置表現にする。後半の「気兼ねなく～」は、<feel free to do ~> か <do not hesitate to do ~> で表現できるが、feel がないので “do not hesitate to” を用いる。使わない語は、1. free である。

B. 4 6 1 7 5 3

The more things you are asked to focus on, **the fewer you will** remember.

「～すればするほど」は、<the 比較級 S V~, the 比較級 S' V' ~> を用いる。また、「～に…するように求められる」は <ask ~ to do ...> を受け身で用いる。因みに、as を用いて全文を表現すると、<As you are asked to focus on more things, you will remember fewer.> となる。使わない語は、2. as である。

C. 4 2 5 7 1 3

If the product is introduced on TV, **it will help** raise **its sales for** certain.

If 節の内容を受ける it を主節の主語にして、<help (to) do ~> 「～するのに役立つ」を用いることで、「その製品がテレビで紹介されることが、売り上げ増加に貢献する」とするが、help に三単現の s がついていないことからその直前に will を用いる。「間違いない」は副詞句の “for certain” 「確かに」で表現する。使わない語は、6. to である。

D. 4 1 5 6 7 3

It being Sunday, the **train arrival time** was different from weekdays.

「日曜日だったので」は、接続詞がないので時を表す非人称の it を主語にした独立分詞構文で表現し、「電車が到着する時間」は名詞 train を形容詞的に用いて “the train arrival time” とする。arrive を用いる場合は、<the time the train arrived> となり、train に the をつけ、arrive を過去形にしなければならない。使わない語は、2. arrive である。

講評

〔Ⅰ〕[英文和訳]	(やや易)	「インターネットによって人は賢くなったか」に関する英文の一部を和訳する問題。“when it comes to” や比較表現, 関係詞の省略が用いられているが難解な語句や文法事項は含まれないため和訳しやすい。
〔Ⅱ〕[長文内容一致]	(やや易)	「テクノロジーの発達により手書きの機会が減ったことによる影響」に関する英文。語彙的にも内容的にも平易な文章である。各選択肢の該当箇所も、話の区切りごとに順を追って並べられており、解き易い。
〔Ⅲ〕[文法四択]	(やや易)	2025 年度と同様に「適していない」ものを選ぶ形式である。基本時制, 自動詞と他動詞の区別, 受動態など基本的な文法・語法をおさえておけば, 正解にたどり着ける問題が多いだろう。
〔Ⅳ〕[発音アクセント]	(易)	最も強く発音する音節の母音の異同を問う問題。日本語でのカタカナの発音・アクセントが英語本来のものとは異なる語が出題されているものの, 発音・アクセントの対策をしてきた受験生にはそれほど難しくないのであろう。また, 福岡大学の推薦・系統別入試の発音・アクセント問題で過去に問われたものと同じ単語が一部出題されている。
〔Ⅴ〕[語句整序]	(やや易)	仮定法, 比較, 不定詞, 分詞構文など, 基本的な文法事項や語法・イディオムが問われており, 受験生には解きやすい問題である。

昨年度と比べて I, III, Vが易化している。目標は 85%

英進館メビオコース紹介

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| ① 医学部本科選抜コース
(少人数クラス授業) | ③ 医学部本科
個別指導コース |
| ② 医学部本科コース
(少人数クラス授業) | ④ 医学部現役
個別指導コース |

英進館メビオの特長

少人数クラス授業、
年間授業約1,500時間
他の予備校にはない
圧倒的な授業時間数!

特待制度
(学費等の減免)
あり

詳細につきましては
個別相談まで
ご説明いたします。

個別相談はご本人のみ、
保護者様のみでの
面談も承ります。



個別相談のお申し込みは、随時、受付中!

医学部専門予備校

英進館メビオ 福岡校

フリーダイヤル

0120-192-215

オンラインでの個別相談も随時受け付けております。お気軽にお問い合わせください。



〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4-8-20 英進館天神本館2号館2階

HP <https://www.mebio-eishinkan.com> またはこちらのQRコードから